

2024年 第49週 12月2日～12月8日

西多摩保健所感染症週報

東京都西多摩保健所
Tel 0428-22-6141



管内の発生動向及び定点把握対象疾患

() は内訳又は前週値

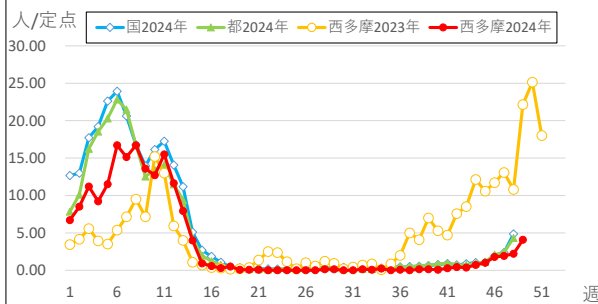
- ・全数届出の疾患は、結核1件(結核性胸膜炎、90代男性)、百日咳1件(5歳男性)の報告がありました。
- ・定点報告は、インフルエンザは4.07(2.21)、**感染性胃腸炎**は3.00(2.13)と増加傾向にあり、今後の動向に注意が必要です。マイコプラズマ肺炎は13.00(5.00)と増加し、都や国と比べて高い状況が続いています。**伝染性紅斑**が1.13(0.63)と増加し、都全体では警報基準を超えています。

管内の感染症集団発生状況

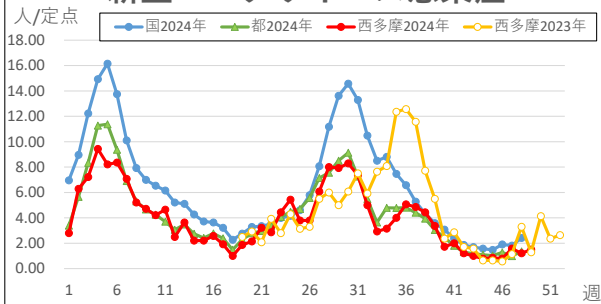
() は内訳

- ・新型コロナウイルス感染症1件(高齢者入所施設)、クロストリジオイデス・ディフィシル感染症1件(医療機関)の報告がありました。

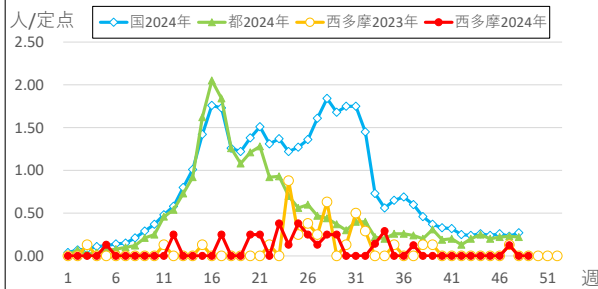
インフルエンザ



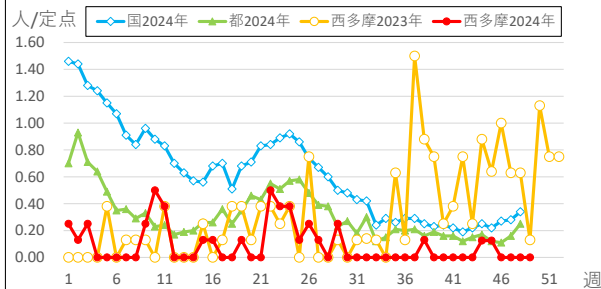
新型コロナウイルス感染症



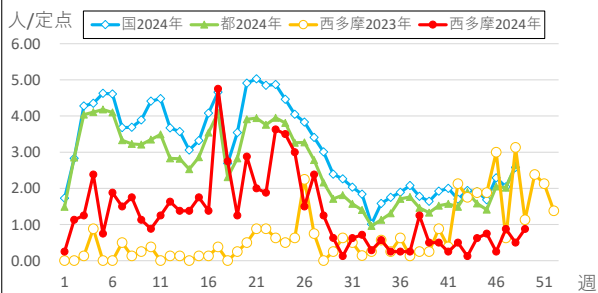
RSウイルス感染症



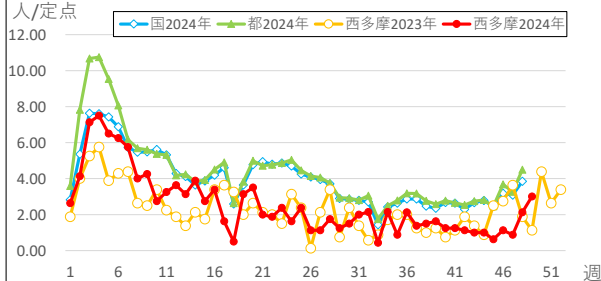
咽頭結膜熱



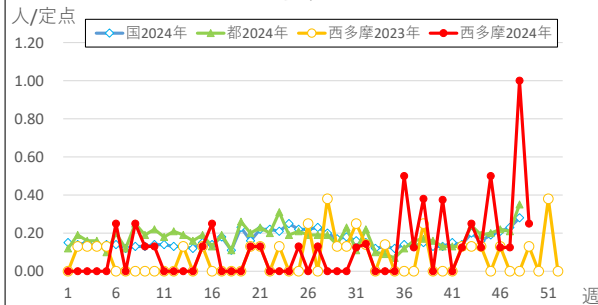
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



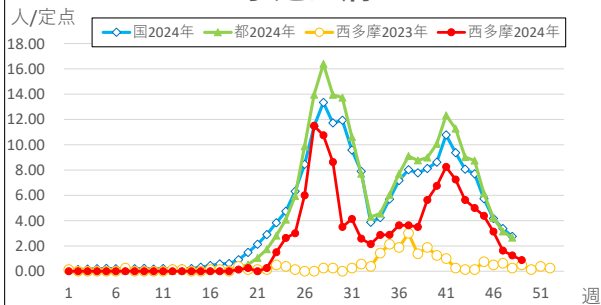
感染性胃腸炎

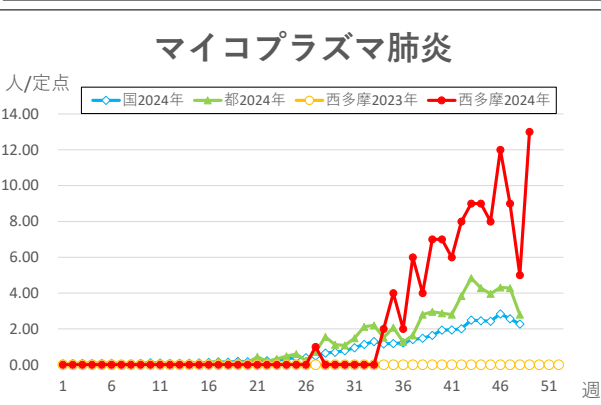
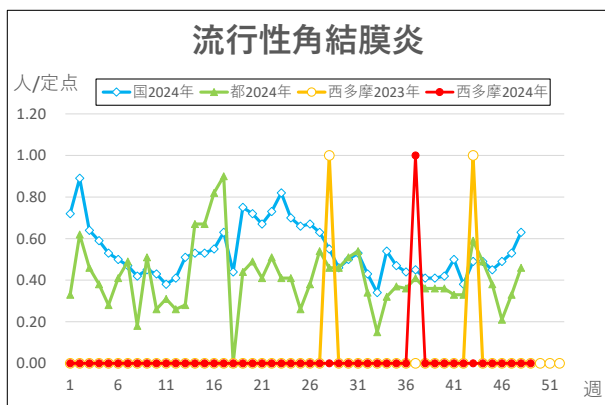
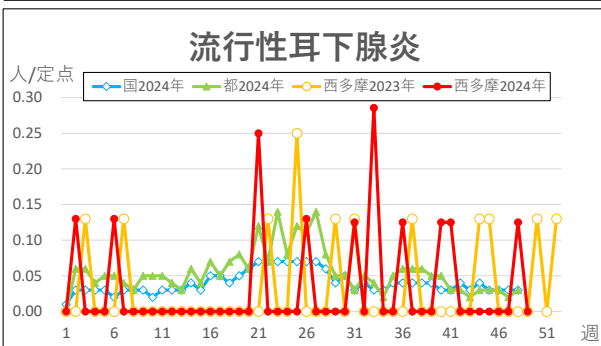
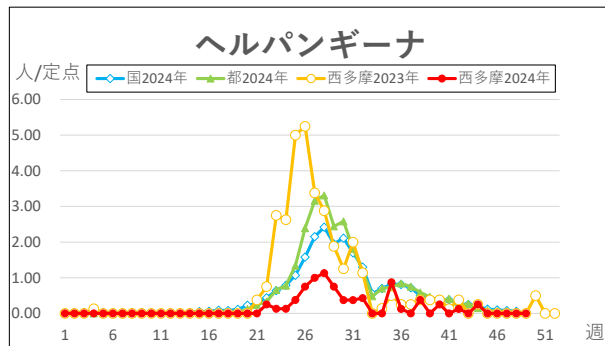
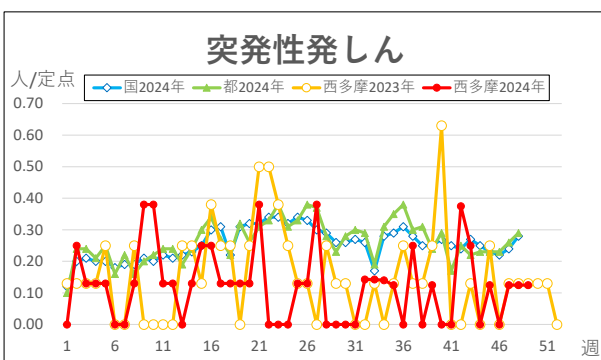
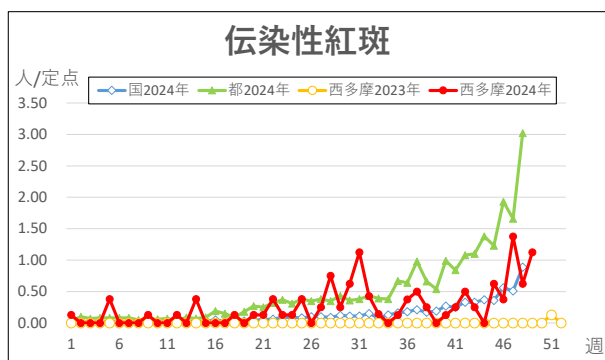


水痘



手足口病





今週のトピックス ～ 伝染性紅斑（りんご病） ～

【どんな病気？】

子どもを中心に流行するヒトパルボウイルスB19を原因とする感染症です。

子どもの場合は一般的には順調に回復しますが、大人がかかると関節炎や頭痛等。さまざまな症状があらわれることがあります。特に、**妊娠中にかかると流産や胎児の異常が生じることがあるため、感染予防や感染した際の経過には注意が必要です。**

【どうやって感染するの？症状は？】

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに触れることによって感染（飛まつ・接触感染）します。

症状は、約10日間の潜伏期間の後、両ほほに紅い発疹が出現し、続いて、体や手・足に網目状の発疹が現れ、1週間程度で消失します。発疹が淡く、他の疾患との区別が難しい場合もあります。

多くの場合、両ほほに発疹が出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられることが多く、この時期が一番人にうつしやすくなります。発疹が現れる時期には、感染力もほぼ消失します。

【治療や予防法は？】

特別な治療方法はありません。患者の症状に合わせた対症療法が行われます。

ヒトパルボウイルスB19はアルコール消毒の効果が乏しいため、流水と石けんによる手洗いをしっかり行うことが大切です。また、周りに広げないよう咳やくしゃみをするときには、口と鼻を覆う、咳がある時はマスクを着用しましょう。

特に、妊娠中あるいは妊娠の可能性がある女性は、周囲で患者発生が見られる場合、感冒様症状の人や患者との接触をできる限り避けるよう注意してください。また、保育園等で流行が見られる場合には、送り迎えを控える等の対応が必要です。



※さらに詳しい情報は下記のサイトを御覧ください。
<https://idsc.tniph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/fifth-disease/>

～ 疥癬（かいせん）～ 施設等で1人でも発生したら保健所へ一報を！

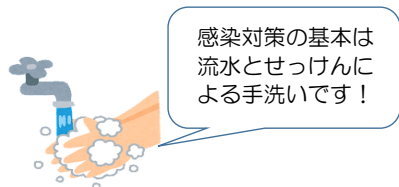
〔管内の発生状況〕

西多摩保健所管内では、疥癬による集団感染が毎年発生しており、2019年は2件、2023年は6件、2024年は第49週（1/1～12/8）までに5件と増加傾向にあり、高齢者施設や医療機関から報告が来ています。

〔疥癬について〕

- 疥癬は、ヒゼンダニが皮膚の最も外側の角質層に寄生して起こる感染症です。通常型と角化型の2種類があります。
- 潜伏期間は1～2か月と長いです。感染経路は、人と人との接触感染がほとんどです。
- 確定診断は、検鏡でヒゼンダニの虫体や虫卵、卵の抜け殻等を検出することですが、検出率は60%前後で皮膚科医でも診断が難しいです。
- 治療は、ヒゼンダニを殺すことを目的とした飲み薬や塗り薬があります。また、かゆみに対してはかゆみ止めの内服薬を用います。

	通常型	角化型
ヒゼンダニの数	数十匹以上	100万～200万匹
患者の免疫力	正常	低下している
感染力	弱い	強い
主な症状	赤いブツブツ（丘疹、結節） 疥癬トンネル	厚い垢が増えたような状態 （角質増殖）
かゆみ	強い	不定
症状が出る部位	顔、頭を除いた全身	全身



〔感染拡大予防のために〕

- 集団感染源となりうる角化型は、自覚症状は軽度か無い場合もあります。さらに認知症等の高齢者では症状を訴えることも難しいと考えられます。
- 日頃から、皮膚の観察**をしっかりと行い、疥癬の疑いがある場合は、**早期に皮膚科を受診**しましょう。
- 施設や医療機関等で感染を広げないためには、疥癬が発生した場合、**施設や医療機関等の間で情報を共有**し、感染力の強い**角化型の患者を早期に発見し、治療につなげる**ことが大変重要です。

※さらに詳しい情報は下記のサイトを御覧ください。

国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/380-itch-intro.html>

直近8週間の西多摩保健所管内定点医療機関報告数

	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	1週目からの累計
新型コロナウイルス感染症	17	14	11	12	11	22	17	21	2,590
インフルエンザ	6	5	10	14	25	27	31	57	2,485
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	28
咽頭結膜熱	0	0	1	1	0	0	0	0	36
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	1	5	6	2	7	4	7	508
感染性胃腸炎	9	8	8	5	9	7	17	24	977
水痘（みずぼうそう）	1	2	1	4	1	1	8	2	47
手足口病	58	45	40	35	25	13	10	7	867
伝染性紅斑	4	2	0	5	3	11	5	9	95
突発性発疹	3	2	0	1	0	1	1	1	44
ヘルパンギーナ	1	0	2	0	0	0	0	0	58
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0	0	0	0	0	0	1	0	10
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	2

○グラフは、5類定点把握対象疾患についての推移を表しています。グラフ縦軸の目盛は定点あたりの患者報告数です。

○管内定点医療機関数は、小児科定点8、内科定点6、眼科定点1、基幹定点1となっています。

○毎週の患者報告数は、管内の定点医療機関から毎週月曜日に報告を受け、週報として水曜日に発行いたします。

○データの出典元は、下記のとおりです。国及び都のデータは1週間遅れで掲載しております。

〈出典〉東京都、西多摩保健所のデータ：東京都感染症情報センター <https://idsc.tniph.metro.tokyo.lg.jp/>

国のデータ：国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>



今後の週報の掲載についてお知らせです！

ホームページの改修に伴い、第50週分（12月9日～15日）からは**毎週木曜日**に掲載いたします。

引き続き感染症週報をご活用いただけますようお願いいたします♪